

木育 MOKUIKU かわら版

知ろう、使おう、広げよう、みやぎの木



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Vol.
8

Contents

Page1	高校生を対象とした木育事業 宮崎工業高校インテリア科での木育教室
Page2	高校生を対象とした木育事業 事後学習会（宮崎工業高校、高千穂高校）
Page3	幼稚園、保育園、子育て支援センターの取り組み
Page4	平成 30 年度木育ネットワーク部会勉強会（宮崎県立看護大学、宮崎大学） もくもくパーク夏祭り

高校生を対象とした木育事業

宮崎工業高校インテリア科での木育教室

日 時：平成 30 年 10 月 9 日(火) 8:20 ～ 16:30

場 所：(株)松岡林産伐採現場（高原町）、宮崎県木材利用技術センター、
都城木材(株)、ランバー宮崎協同組合

参加者：43 名（生徒 37 名、引率 3 名、事務局 3 名）



宮崎県立宮崎工業高校インテリア科の生徒と保護者を対象に、地域の循環資源である木材をテーマに伐採現場・木材加工企業などへの現地見学会を実施しました。

①松岡林産伐採現場見学



③都城木材見学



④ランバー宮崎協同組合見学



②宮崎県木材利用技術センター施設見学



● 生徒の感想より ● 一部抜粋

- ・木材加工などの場所をたくさんまわって見学をし、今までよりももっと「木」について詳しくなった気がします。実習では使わないチェーンソーや様々な機械などのことを知る機会にもなった気がします。それと、「働く」ということに対しての心構えなども分かりました。
- ・松岡林産では初めて伐採現場を見て迫力がありました。木材利用技術センターはスギの木が木の花ドームの屋根や緩てるはドームに使われていることを知り、意外なところに使われていると思いました。都城木材(株)は、木材が何に使われていくか、木がどんな役割を果たしているのか分かりました。ランバー宮崎協同組合は加工をヨーロッパの機械を使ってやっていることにびっくりしました。中身の濃い時間になり良かったです。
- ・松岡林産では大切に育てられた木が目の前で伐り倒されていくのを見て、本当にすごいなあと思いました。木材利用技術センターでは、木についてとても熱心に研究されていて、特に「木組み」を体験できるスペースでは日本の技術に感動しました。都城木材では製材所が林業で大切な役目を担っていることが分かりました。ランバー宮崎では技術のすごさに驚きました。この見学会で本当に良い経験ができて良かったです。

高校生を対象とした木育事業 宮崎工業高校事後学習会

日 時：平成30年11月1日(木)

場 所：宮崎県立宮崎工業高校

参加者：インテリア科2年生、関係者



10月に実施した林業現場見学会の体験報告会を協力いただいた事業体の皆さまに来ていただき開催しました。生徒からの質問に答えて頂く形式で、報告後はそれぞれ事業体の方と交流を行いました。

➤ 生徒からの質問（一部抜粋）

【ランバー宮崎】

Q. 社名の由来は？ A. ランバーは木材製品のこと。

Q. 新たに挑戦してみたいことは？

A. 非住宅を木造住宅にすること。東南アジアなどへのマーケットの拡充。

Q. どんな作業が一番難しいか？

A. ブレカットの作業なので、木材の知識と建築の知識が必要。木材も種類が色々あるので、加工一つとっても技術が必要。

【都城木材(株)】

Q. この仕事をやっていて良かったと思うことは何か？

A. 家に住まわれるお客さんから「ありがとう」と言われること。

Q. 平和な産業についてもう少し詳しく教えてください。

A. 木材利用技術センター元所長の有馬さんの言葉で、身近にある石油やプラスチックは化石燃料であり限りがあるものを奪い合っている。それに対して、植物資源は使って植えたら育つのが平和でないと育てていくこともできない。また、循環できれば奪い合う必要もなくなるかもしれない、ということで、植物資源を平和産業と言っている。

高千穂高校事後学習会

日 時：平成30年9月18日(火)

場 所：宮崎県立高千穂高校

参加者：1年生、関係者



5月に実施した林業現場見学会の体験報告会を協力いただいた事業体や森林組合、町の関係者の皆さまに来ていただき開催しました。高千穂地域の林業の実態に触れた生徒が森林環境・資源の保全と活用について認識を深める事を目的とし開催し、1年生107名を代表して8名の生徒が体験報告を行いました。生徒の発表内容を一部ご紹介します。

➤ 普通科 男子

伐採現場ではチェーンソーから機械による玉切りまでの工程を見て日本の林業の巧みさを感じました。切り倒した瞬間の地響きは危険を伴う仕事であることを実感しました。トークセッションでは林業はただ単に木を伐るだけだと思っていましたが、様々な道具を使い木と向き合っている大変難しい仕事であると感じたと同時に、大変やりがいのある仕事であることが分かりました。また、女性の方も働いており、林業へのイメージが変わりました。造林現場では成長するまで40年以上を要するように年月の長さを感じ、だからこそ自然を大切にしなければならないと思いました。林業は木を伐るだけでなく植えて環境を守っている事にも感銘を受けました。地球温暖化や資源の枯渇は人類生存に関わる極めて重要な課題となっています。今回現場を見るまでは林業は森林伐採のイメージが強く環境問題の原因ではと疑っていましたが、造林していることを知り、伐ったら植えるシステムを守れば森林の育成と生産、利用の循環システムが実現すれば必ず地球環境の保全にも繋がると感じました。

● 講評 ● <参加事業体社長より>

「今までこのような機会がなかった。今後も継続してこのような機会を設けてもらえれば、担い手確保にも繋がるのでは」

【(株)松岡林産】

Q. 仕事の中で一番大変なことは何か？

A. 自然の中での仕事なので、雨や風、台風などが大変。

Q. 機械を使いこなせるようになるにはどのくらいの期間が必要か？

A. 人によって差がある。半年で上手くなる人もいるが、大体2年くらいで使いこなせるようになる。

Q. 女性でも働くことは可能か？

A. 可能。県内では十数名オペレーターとして作業している。林業界は女性でも大歓迎なので興味があれば働いてほしい。



生徒の報告書はイラスト入りで
しっかりまとめられています



● 講評 ●

・松岡社長（(株)松岡林産）

「またこのような機会があれば私自身も勉強して色々な情報を提供したい。これを機会に林業についてもっと考えるようになってほしい。」

・持永常務（ランバー宮崎）

「自分で調べることがすごく大事。自分で時間を作って調べると全然違うので、いろんなことを調べてほしい。仕事については木材産業だけでなく色々なことにトライして欲しい。」

・五十嵐取締役（都城木材(株)）

「木というのは身近で当たり前の存在であるが有難さは忘れがち。木がなくなると文明も滅びるので、先輩たちが育てたものを大切にする責任があると思う。木材産業に関わらなくても、木と皆さんはずっと付き合いしていくと思うので大事にして欲しい。」



➤ 普通科 女子

伐採現場では木を切り倒す度に大きな音と振動が私の体を襲い大変危険であると身にしみて感じました。また、木を切り倒しクレーンを巧みに操り、枝を切断するように大胆な活動と繊細な活動が一つの現場で求められていることが分かりました。トークセッションでは正直「女性が林業で働くと言っても事務をするぐらいだろう」と思っていた私にとって、現場で働いている事実はあまりにも衝撃的でした。一方で男性のイメージが強い林業に女性が働いていることは女性の社会進出が進んでいることの現われで社会の変化を知りました。女性ならではの苦労があることも分かりました。だからこそやりがいがあるのだと思いました。男性のイメージが強かった林業の見方が変わると共に、女性の社会進出社会貢献の形が変わってきていることを実感しました。造林現場では林業は木を伐り倒すイメージだったので、植樹をしていることをはじめて知りました。苗木にも色々な種類があることも初めて知りました。また、大きくなるまで40年以上かかることを知り、木や自然を大切にしなければならないと改めて感じました。今回の林業体験で林業は伐採で終わるのではなく、造林も行う現在のシステムの中で日常生活に必要な木材となっていることを知りました。また、このシステムが環境保全を考えた取り組みであることに日本の林業に誇りを感じました。

幼稚園、保育園、子育て支援センターの取り組み

➤ 高千穂子育て支援センター

子育て支援センターより「お母さんたちへの木育」について相談があり、高千穂町の農林振興課、子育て支援センター、西白杵支庁の福祉課と林務課が連携し、9月28日(金)13名のお母さんに「森林の二酸化炭素固定機能」をテーマに説明した後、「MYはしづくり」を行いました。その結果、今後も定期的な木育講座の開催希望があったため、山や森林に関する勉強と季節に応じた木工を組み合わせたプログラムを立てました。



パネルで説明



子どもも真剣に見守っています(^^)



記念撮影

➤ 高千穂中央保育園

10月18日(木) 敬老参観で、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に、端材で『老眼鏡がけ』を作りました。おじいちゃんから、「昔は木材の切れ端で色々作って遊んでいたが、今の子ども達はそのような機会もないので、保育園で経験できるのはありがたい」との感想がありました。また、一緒に製作することで、お孫さんの成長に驚き、喜ぶ姿も見られました。



材料選びも真剣!



おじいちゃんと一緒に、懸命に磨きます☆



記念撮影

➤ 田原保育園

10月25日(木)、地域のボランティアの方3名にご協力いただき、年中、年長クラス6名と『森のかけらのお守りづくり』を行いました。ボランティアの方とも楽しくおしゃべりしながら製作し、ボランティアの方からは「子ども達と一緒に活動すると元気がもらえる」と感想を頂きました。今後も、地域の世代間交流ができるような取り組みにしたいと思います。



おしゃべりも弾みます♪ できたよ☆



記念撮影

➤ めぐみ保育園

年長児を対象に木育(ネイチャーアクション)を年6回実施しています。今回は8月と10月の取り組みをご紹介します。

・沢あそび! 「沢の流れ、音、水の感触、周りの植物や生き物に触れる」
8月24日(金) 場所: ポーイスカウト宮崎連盟野外訓練センター
廃材で作った舟を沢で浮かべ、何度も泳がせました。沢の生きものも見つけ大満足! 昼食後は、自分専用の木槌を作り、大喜びの子ども達でした(^^)



カニ、みつけたよ!



いざ出発! 「いけー!」



マイ木槌づくり

➤ 第一高千穂幼稚園

10月15日(月) 年長と年中クラスの園児28名へ木育活動を行いました。導入では先生に木育に関する絵本を読んでいただき、その後、森林クイズを出し、「森のかけらのお守りづくり」を行いました。「もりのかけらのお守りづくり」では、お気に入りの木片を探し出し磨いてもらうようにしたところ、「自分で選んだ」という意識になり、懸命に取り組む姿が見られました。



クイズでは大盛り上がり!



年輪を数え木の年齢を確認



記念撮影

➤ 木の花幼保園

10月23日(火) 年少から年長クラスの40名で『森のかけらのお守りづくり』を行いました。年少さんが紙やすりを扱うことができるか心配でしたが、年中、年長クラスのお兄ちゃん、お姉ちゃんがするのを真似して、上手に取り組むことができました!



上手に磨いています



できたよ☆



記念撮影



・もりのコックさん! 「火の大切さ、火のおこし方を知り、食べ物を作る喜びを知る」

10月19日(金) 場所: ポーイスカウト宮崎連盟野外訓練センター

火の役割や大切さを学んだあと、実際にマッチ刷り体験。怖がりながらも火がつかしました。その後、自分たちで生地を竹に巻き付けツイストパンを作り焼きました♪焼き芋も一緒に楽しみました。午後は、先生が手形を切り抜き、手形ツリーを製作しました。大きくなった時に手形を見て幼少期の楽しかったことを思い出して欲しいです(^^)



おいしくなあれ、おいしくなあれ~♪



ぼくの手だよ!



記念撮影

平成 30 年度 木育ネットワーク部会勉強会

昨年度に引き続き、今年度も、現在の知識、技術をさらに向上できる勉強会を企画、実施しました。

子どもの発達とおもちゃ

日 時：平成 30 年 8 月 30 日（木）13:30 ～ 16:00

場 所：宮崎県立看護大学 多目的ホール

参加数：22 名（部会会員 20 名、事務局 2 名）

講 師：宮崎県立看護大学小児看護学 講師 甲斐 鈴恵氏



甲斐 鈴恵（かい すずえ）

宮崎県立看護大学 小児看護学講師
研究テーマとして、おもちゃを媒体とした看護職者の育児支援について、など。日本グッド・トイ委員会の「おもちゃコンサルタントマスター」を取得。
おもちゃコンサルタント講師。グッド・トイ委員会 宮崎支部会長として県内のおもちゃコンサルタントと共に子育て支援活動を行う。

今年度も昨年度同様、子どもの発達に合わせておもちゃを選ぶことが大切であることを学びました。脳の感覚野・運動野では手と顔に関係する部分の割合が大きいため、遊びの中で手と顔を動かすことが大事であること、何よりも、大人と一緒に楽しむことが、子どもの情緒を豊かに育むことを学びました。

また、現在、多く報告されている SNS でのトラブルや課金トラブルなどメディアによるトラブルですが、幼少期からスマートフォンやタブレットなどで遊ばせていると、メディア依存症になりやすいことも分かり始めています。保護者自身がメディアから離れ、子どもと向き合うことが大切だと感じました。



新聞の棒 2 本を使ってキャッチ棒！相手の呼吸と合わせるのがコツ☆



2本の輪を違う方向に回します。回った瞬間、歓声が（^^）

木の不思議

日 時：平成 30 年 9 月 26 日（水）13:30 ～ 16:00

場 所：宮崎大学木工室

参加数：14 名（部会会員 11 名、事務局 3 名）

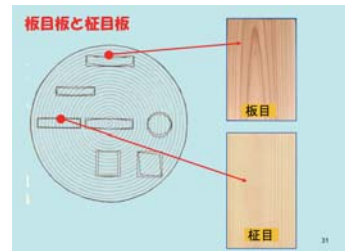
講 師：宮崎大学教育学部技術教育講座 教授 藤元 嘉安氏



藤元 嘉安（ふじもと よしやす）

宮崎大学 教育学部教授
1989 年・2001 年 九州大学農学部助手
2001 年・2011 年 宮崎県木材利用技術センター木材加工部長
2011 年から現職

今年度は『木材と水の関係』と題し、実験も行いながら木材の性質について学びました。木材の含水率による寸法変化についてや、木取りによる変形について学びました。



木取りの変形を利用した例として、桶と樽があります。桶は蓋がなく一過性の容器である為、寸法変化の少ない柱目板が使用されるのに対し、樽は液を長時間いれておくため、膨潤し板同士の隙間が閉まりやすい板目材が使用されます。



まず飽水状態にし、一部のみ圧縮します。その時に、穴を開けます。ボルト・ナットをつけたのち、圧縮した部分を熱湯につけると…あら不思議！不思議の出来上がり！



もくもくパーク夏祭り

日時：平成 30 年 8 月 8 日（火）～ 16 日（木）10:00 ～ 19:30

場所：宮崎山形屋 5 階催事場

最終日は 17:00 終了



木育サポーターと一緒に『宝箱作り』



宮崎工業高校生もお手伝い！



毎年人気☆『ボール転がし』



かっこいい車
ができたよ！

今年も開催された、宮崎山形屋でのイベント『もくもくパーク夏祭り』。多くの来場者で賑わい、木の遊具やショップを楽しむ様子が見られました。ワークショップは木育サポーターと宮崎工業高校インテリア科の生徒が担当し、高校生が企画した『日時計』も好評でした！作品を完成させた参加者も満足の様子でした。

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成 25 年 2 月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

お問い合わせ

みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会 事務局

宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室

〒880-0802 宮崎市別府町 3 番 1 号 宮崎日赤会館 2F TEL：0985 (27) 7682 / FAX：0985 (25) 2398

※木育かわら版の発行には「宮崎県森林環境税」が活用されています。

